

名古屋城木造復元？

昨日レポートした「副市長問題」だけでなく、表題についても今どうなっているのか、どうもよく分からない。少ない新聞情報から、問題状況を整理しておきたい。

日経新聞 4 月 29 日朝刊によると、名古屋城天守閣の木造復元構想を巡り、市議会の経済水道委員会は 28 日、有識者らを参考人として招き、質疑を行った。熊本地震で熊本城が大きな被害が発生したことを受け、市議からは耐震性に関する疑問が相次いだ。有識者からは「建築基準法を満たす施工で復元すれば問題ない」との意見の一方、「石垣の耐震補修を優先すべきだ」との指摘もあったという。熊本城については、被害状況を正確に把握し、名古屋城で想定される問題の調査・検討が急がれるべきだ。とりわけ石垣の耐震性調査を優先的に行う必要がある。

同じく日経新聞 4 月 21 日朝刊の記事も気になった。名古屋城天守閣の木造復元事業を巡り、名古屋市は今年の冬にも天守閣を閉鎖する方針であることが 20 日、分かった。復元にあたり、年内に天守閣エレベーターを解体する作業に入るためという。あわせて、事業費などの確保のために入場料の引き上げを検討するとある。これはおかしな記事だ。もう「木造復元」が決まったかのような書きぶりである。記事にもあるように、「市は 5 月に市民アンケートを実施し、木造復元構想がどこまで支持されているか調査する」からだ。市民の意向を聞くまえに、「木造復元」なるものが河村市長の意向に沿うかのよう一人歩きしているのではないか。はなはだ疑問だ。

写真は朝日新聞 3 月 30 日朝刊。名古屋城天守閣の木造復元をめざす河村市長は 29 日、復元の技術提案をした 2 社から竹中工務店を選んだと発表。木造復元案が固まり、議会説明や是非を問う市民アンケートへと手続きが進む。市は東京五輪のある 2020 年の 7 月末までの完成を条件に技術提案を公募。竹中工務店と安藤・間の 2 社が応じ、専門家らが工期達成や事業費縮減の工夫、バリアフリー、木材の調達方法などで採点。市長は尾張藩主に扮して発表。市が最大 400 億円と試算した総事業費が膨れたことには「交渉するが、理にかなった値段。名古屋は地の利が良く世界中から客が来る。入場料収入や観光収入でまかなえる」と。

早々と「理にかなった値段」とは、これいかに？ とにかく分かりにくい。



(2016年5月8日)